



いのちの灯の集い 「大震災といのち」を考える

映画監督2人に文化賞

老人医療費無料化発祥の地記念碑を囲んで生命尊重理念を再確認する「いのちの灯の集い」が、11月

26日午後1時から深澤晟雄資料館前で町内外の関係者約80人が参加して行われました。

この集いは、NPO法人輝けいのちネットワークの主催で毎年この時期に開催されています。席上、生命尊重の理念発信などに貢献した個人や団体に

贈られる「いのちの灯文化賞」に、今年は2人の映画監督が選ばれました。

同賞は深澤晟雄の会と輝けいのちネットワークの両NPO法人で構成する「いのちの灯文化賞贈呈委員会」（委員長＝深澤晟雄の会太田祖電理事長）で

受賞者を選考して贈呈するものです。老人医療費無料化50年を機に昨年創設され、初回は「村長ありき」の著者・及川和男氏に贈ら

れています。

2回目となる今回は、深澤村長の生命尊重行政を紹介した劇映画「いのちの山河」日本の青空2く」を制作した大澤豊氏（76）

報道陣の求めに応じて賞状と記念の盾を手に深澤村長胸像前に並ぶ左から大澤豊氏と小池征人氏。



陸前高田市の支援活動で着用しました

と、深澤村長の理念が半世紀経過した今にどう受け継がれているかを記録映画として制作した小池征人氏（66）が選ばれました。両氏とも命の尊厳を訴えた深澤村長の業績を全国に紹介した功績が認められての受賞です。

Tシャツ 1枚3千円

深澤晟雄の会ではスタッフ用にTシャツを作りましたが、一部の町民から「私もほしい」との声が

あり、一枚3千円でお分けています。色違いで3種類ありますので、希望者は深澤晟雄資料館で確認の上、お気に入りの品をお求めください。

冬期は予約で開館

深澤晟雄資料館は年内は12月26日まで通常開館（火曜休館）しますが、その後3月末までは原則休館とし、予約により開館します。予約は下記表示の深澤晟雄の会事務局へ電話またはFAXで。（年末年始と月曜休み）

集いはその後、沢内バーデンに移動して「東日本大震災といのち」をテーマに報告会を開催。町内外の6人から、大震災で被災、支援体験を通して「いのち」の重さとその教訓を後世に引き継ぐ大切さが強調されました。

西和賀の皆さん ありがとう

前号に続いて復興への決意を込めた「陸前高田から支援の礼状」です。

祭りのような一日

仮設住宅・菅原秀子様

先日は遠路はるばるのお出でいただき、とても楽しいお祭りのような日となりました。大変ありがとうございました。

イワナの塩焼き、きのこ汁、いぶりがっこ、お寿司、サンマの塩焼き、コーヒーなど、すべて美味しくごちそうになりました。歌や踊りにも勇気づけられ、芸達者の方々の多いのにもびっくりです。心温まるご支援に感謝いたします。来春にはかたくりの花、水ぼうしようを見にぜひ西和賀を訪ねたいと思います。

希望に向かい前進

柴田千代子様

先日は私たちへの炊き出しや演芸をありがとうございます。秋空の下で皆さんと一緒にできた一日はとても楽しく、ご親切な数々が身にしみて忘れられない一日でした。

演芸には感動と明日への生きる希望をいただき、イワナの焼きたてには思わず舌づつ

みをうちました。今でもありがたく思い出されます。

私たちも後を振り返らず、希望に向かって前進したいと思っております。本当に皆様ありがとうございます。

人の繋がりが大事に

(署名なし)

仮設住宅に住む私たちは津波によってショックを受け、月日がたつてもなかなか抜けません。それが、皆さんたちの心のもった料理や芸能、励ましの言葉に勇気もらい、人のつながりがいかに大事かわかり、感謝しております。

元気を貰ったことで今後は目標をみつめて進もうと、家族一同で感謝しております。

お礼の訪問したい

横田中仮設・菅野様

先日はすばらしい演芸とても美味しい炊き出し等、心温まるおもてなし、ありがとうございます。皆さん方の挨拶で西和賀とのつながりを知り、何年も前から深い絆で

結ばれていたと感じました。

以前、娘が専門学校の実習で西和賀に行き、地元の人たちと触れ合って「皆さん優しい人たちなんだよ」と話していました。今回お会いして改めて娘の言う意味が分かりました。

皆さんからの励ましをバネに、少しでも上に向かって頑張ろうと思えます。仮設のみんなが自立でき、いつか西和賀町にお礼の訪問ができる日を楽しみに頑張ります。

励ましを忘れずに

(署名なし)

大変うれしい支援温かい皆さんのご支援が心にしみました。

本当にありがとうございます。これから長い道のりですが、皆さんの笑顔、励ましを忘れず頑張っていくと思えます。

前向きに進みます

(署名なし)

当日は早朝から岩手の北から南まで長い道のりを駆けつけて、炊き出しから演芸まで大変忙しかつたことでしょう。最初はコーヒー、サンマやお寿司、今が旬のきのこ汁等をいただきました。踊りもまた楽しく、何もかも忘れてひと時を過ごさせていただきました。誠に感謝、感謝です。

私たちは不安や心配ごとが常に頭にあって、いつも顔をしかめて歩いています。これからは泣いてばかりはいられません。しっかり前を向いて進みたいと思います。



西和賀の味を孫？に持ち寄る姿に思わずカメラを向けました。